

科目ナンバー： MmC3133

授業コード： 6630301510

講義科目名称： 助産学実習 I（周産期ケア）

英文科目名称： Clinical Practice in Midwifery I (Perinatal Care)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	10単位	助産師必修
担当教員			
◎増澤祐子、常盤洋子、八巻ちひろ、五十畑麻奈美、塚田文枝			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 1年後期	【授業時間】 450時間（1年後期・2年前期計）
	【担当教員】	
	【氏名】	【所属】
	◎増澤 祐子	新潟県立看護大学
	常盤 洋子	同上
	八巻 ちひろ	同上
	五十畑 麻奈美	同上
	塚田 文枝	同上
	【研究室】	【メールアドレス】
	311	masuzawa@niigata-cn.ac.jp
	320	yotokiwa@niigata-cn.ac.jp
	309	cyamaki@niigata-cn.ac.jp
	共同研究室2	isohata@niigata-cn.ac.jp
	共同研究室2	ftsukada@niigata-cn.ac.jp
	【大学の科目区分】 専門分野	
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】	
	研究	
	CNS	
	助産	◎ ○ ○ ○ ○

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象となる妊産褥婦を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。 科学的根拠に基づいた助産診断・技術を活用し、周産期の診断とその経過の予測を的確に行い、診断に基づき助産ケアを実践できる。 理論の統合に基づき、母子に対して安全で安楽な助産ケアを実践できる。 ハイリスク妊産褥婦、ハイリスク新生児の援助の実際を学び、他職種との連携・協働および医療チームの一員としての助産師の役割を考察できる。 助産師としての職業倫理に基づいた態度と行動を身につけるために、実習を通して助産師の役割と責務、専門職業人としての倫理観について学び、考察する。 実習を通して自己の助産観を醸成することができる。
------	---

授業概要	周産期にある母子とその家族を対象に、科学的根拠に基づく助産過程を展開し、助産ケアや保健指導を実践する。正常経過の助産診断、10例程度の分娩介助、正常からの逸脱の診断、逸脱予防のケアを実践する。また、総合周産期母子医療センターにおいてハイリスク事例へのケアの実際を学ぶ。
------	--

授業計画	<p>授業形態：実習</p> <p>実習施設：実習施設名 新潟県立中央病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 医療法人 立川メディカルセンター 立川総合病院 日本赤十字社 長岡赤十字病院</p> <p>所在地 新潟県上越市新南町205 新潟県上越市大道福田616 新潟県南魚沼市浦佐4132 新潟県長岡市旭岡1-24 新潟県長岡市千秋2-297-1</p> <p>実習期間： I期：令和8年8月上旬～9月下旬（この期間のうち2週間） II期：令和9年2月上旬～3月中旬（この期間のうち4週間） III期：令和9年4月中旬～6月下旬（この期間のうち4週間）</p> <p>実習内容： I期：早期臨床体験実習 ・妊婦・産婦・褥婦・新生児への助産ケアの実践や分娩見学を通して、助産師としてのアイデンティティ獲得の第一歩とし、今後の自己課題を明確にする。 ・分娩見学を通して、施設における分娩介助方法の実際を理解する。</p> <p>II期、III期 継続事例 (妊娠期) ・妊娠初期・中期・後期の各期にある妊婦を受け持ち、母子の健康診査及び</p>
------	--

	<p>保健指導を見学・実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産準備教育（集団指導）について、準備の段階から参加し、集団指導の運営方法、実際の展開（集団へのアプローチ）を見学する。 <p>（分娩期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローリスク産婦を分娩第1期から第4期まで受け持ち、分娩期の助産過程を展開する。 ・継続事例を1例含む分娩介助10例程度。 ・予定帝王切開手術を受ける妊産婦を受け持ち、手術見学及び周手術期のケアを実践する。 <p>（ハイリスク妊産婦）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク妊産婦・新生児の援助方法、周産期医療システム、他職種連携、助産師の役割について総合周産期母子医療センターでの見学実習を通して考察する。 <p>実習期間：Ⅰ期：令和8年8月上旬～9月下旬（この期間のうち2週間） Ⅱ期：令和9年2月上旬～3月中旬（この期間のうち4週間） Ⅲ期：令和9年4月中旬～6月下旬（この期間のうち4週間） （ただし、分娩介助が10例に満たない場合は延長する可能性がある）</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：基礎助産診断・技術学演習、助産診断・技術学演習ⅠⅡⅢⅣⅤで学んだ知識・技術を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。実習開始前に助産師国家試験問題集の問題を解いておくこと。 事後学修：実習中および実習後の日々のリフレクションを丁寧に行うこと。</p>
評価方法、評価基準	<p>①到達目標1・2・3に対して、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期実習自己評価表及び助産学実習Ⅰ評価表の「妊娠期」「分娩期」と実習終了後のリフレクション、記録物の内容を基に評価する。 ②到達目標4に対して、助産学実習Ⅰ評価表「帝王切開手術」「ハイリスクケア」と実習終了後のリフレクション、実習記録の内容によって評価する。 ③到達目標5・6に対して、助産学実習Ⅰ評価表に基づき、実習目標の到達度、記録物の内容と提出状況、実習への取り組み、実習中および実習後のリフレクション等を総合的に評価する。 ①80%②10%③10%を基準として総合的に判断する。</p>
テキスト	<p>実習で受け持った事例に関する資料や文献を基に助産診断および助産ケアの実践やリフレクション資料を作成するためテキストは特に指定しない。</p>
参考図書・資料等	<p>実習で受け持った事例の助産診断および助産ケア、リフレクションに関する資料や文献を適宜活用するため参考図書・資料等は特に指定しない。</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<p>詳細は実習要項を参照。 実習のリフレクションに使用する資料を準備して指導を受けること。</p>
教員からのメッセージ	<p>実習前から自己の体調管理は留意してください。分娩介助1例1例のリフレクションは臨床指導者、教員それぞれと迅速に丁寧に行うように努めること。</p>
オフィスアワー	<p>在室中は可能な限り対応する。実習中はメールでの相談も受け付ける。</p>